昭和甲府
紫映通信
第32号
発行
山梨県立甲府昭和高等学校
ＰＴＡ事務局
印刷 (有)平和プリント社

第31回 卒業証書授与式

本日３月１日、多数の来賓のご臨席のもと、卒業証書授与式が挙行されます。山梨県立甲府昭和高等学校第31期生、273名が学び舎を旅立ちます。これで創立以来の卒業生は9,947名を数えます。
新卒業生の活躍と輝かしい未来に対し、心からの祝意を表します。

活躍する君たちへ

校長　内藤　剛

第三十一期卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。保護者の皆さまにおかれましては、お子様のご卒業、心よりお祝い申し上げます。日頃よりＰＴＡ会長五味様をはじめ、保護者の皆様方のご協力により、学校運営がスムーズにできましたことに感謝いたします。今年度は、紫映祭に保護者の方々の出店もあり、生徒の活動を後押ししていただきました。今後ともご支援・ご協力をよろしくお願いします。

さて、これまで多様性を許容してきた国際社会において、内向きの価値観が強まる傾向があります。イギリスでは、国民投票によってＥＵ離脱が決まりました。また、アメリカでは、「アメリカ第一主義」を掲げ、一月にトランプ氏が大統領に就任しました。内向きのナショナリズムの空気が、ヨーロッパにさらに広がろうとしています。グローバル化が進む現在に、何よりも自分たちの暮らしをきちんと保ちたい、そんな気持ちが強まっています。そのような中、資源を輸入に頼り、食料の自給率も低い日本の課題は、少なくありません。さらに、少子高齢化が進み、人口減少は避けられない課題です。

このような課題に立ち向かう、活躍する皆さんに心がけてほしいことが2つあります。まず、お互いの長所を生かして行動してほしいと思います。咲く花がみな違うように、皆さんの顔も一人一人違います。それぞれ、特色というもの、個性というものを持っています。短所もあるわけですが、長所を生かすのです。そのためには、その課題に対しての自分の考え、意見をしっかり持ち、相手の意見を聴くことを大切にします。話し合いの中では、対立することもあるでしょうが、お互いの長所を生かすことを思えば、「そういうことも考えられるな、納得。」と、調和の道にたどり着くことができるでしょう。最初からあきらめたり、対立を恐れたりしてもいけません。花束が美しいのは、それぞれの花が、調和しているからです。

次に、周囲から信用される人、なくてはならない人になってほしいと思います。些細なことをおろそかにせず、朝、心を新たにし、夜、床につく前に「昨日よりここが良かった。」と、思えるような一日一日を積み重ねましょう。例えば、相手からの頼まれごとがあったとします。それをあなたが実行したならば、その報告をしましょう。依頼した人に完了したことを伝えるのです。依頼した人も特別その報告を待っているわけではないかも知れませんが、完了報告を受ければ、あなたの丁寧な対応に心が動くと思います。このような小さなことを続けたなら、周囲からの信用は必ず高まります。そして、あなたはなくてはならない人となるはずです。

どんなに時代が変化しようとも、それぞれの特色や個性を生かし、相手の長所をよく見て、調和の道を拓いてください。多くの人との関わりの中で、小さなことを積み重ね、周囲から信用される人になってください。

自分を信じて

ＰＴＡ会長　五味　勝己

第三十一期卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。ご家族の皆様におかれましては、お子様のご成長を心よりお喜び申し上げます。

昨年十月の強歩大会で、生徒の皆さんと一緒に走ったことは、私の一生の思い出であり、掛け替えのない経験になりました。皆さんを励ますつもりで一緒に走りましたが、すれ違う殆どの生徒が挨拶をしてくれ、私に声援を送ってくれました。「頑張ってください」「もう少しで折り返しです」その言葉に逆に元気づけられ、さすが昭和高生だなと、改めて思いました。自分の目標タイムに向かって走っている人、仲間と励まし合いながら走っている人、自分のペースを守りながら歩いている人、それぞれの強歩大会があったと思います。

卒業する皆さんは、これから各自の目標に向かい、それぞれの道を進んでゆきます、強歩大会のようにそれぞれのペースで良いと思います。しかし、これからの長い人生では色々な事が起こるでしょう、学生の頃は学校や先生に守られていた部分が有りましたが、社会に出ると一人の大人として見られ、自分自身で対応していく事が必要となります。その為にも多くを学び、沢山の経験をし、自分に自信を持って人生を歩んで下さい。

自信とはなんでしょう？　自己肯定感です。簡単に言うと自分で自分をどう見ているか、自分という人間に対する思いです。まず自分を知りそれを認め、何が必要でどうすればよいのか、それを考え実行する事が大切だと思います。例えば、バケツの水を両手ですくって別のバケツに移します、自分の手のひら以上の水はすくえませんね、手のひらにすくった水があなたの出来ることです。まずはそのあるがままを認めて下さい、「これだけか」と思うのなら、何度も何度もすくって下さい、それが学びであり経験です、自分を信じ、ただひたむきにそれを繰り返して下さい。

「自信」というものは自己肯定ですが、努力が他人に認められたことでさらに身に付くのだと思います。その、共感して認めてくれる人が、あなたの人生を共に歩んでくれている人達です、感謝を忘れずに。

私も、強歩大会を走った後に、知人から「よく走ったね、自慢して良いよ」と褒められて、すごい事をしたのだと大きな「自信」になりました。

自信を身につけ、自ら学び、新しいものを創り出し、自己実現に努めてきた皆さんです、「自主創造」の気持ちを忘れず進んで行ってください。あなた「自身」のために……

卒業生に贈る言葉

人の為

PTA副会長（三学年部会委員長）
功刀辰也

三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、保護者の皆様には心よりお祝い申し上げます。

卒業される皆さんにとって、昭和高校で過ごした三年間とはどんなものだったでしょうか。

もう三十数年前のことになりますが、私にとっての高校時代は、「最高の時間を最高の友人達と過ごした、人生の中で最もお気楽な時間だった」と言えるでしょう。なぜなら、責任というものの大きさを知らずに大人びてもいられ、また、勉強と部活をしてさえいれば子どもでもいられた、そんな楽ちんさがあったからです。ですが、卒業後は違います。進学・就職等それぞれの道に進み、どこにいても、さまざまな責任のもとに自分自身を律していかなければなりません。昭和高校の三年間で身につけた学問や礼儀を支えに具体的な目標を定めて頑張っていくのです。

さて、ここで漢字のおハナシをひとつ。「偽」という漢字の語源をインターネットで調べてみたことがあります。すると、つくりの「為」の基本的な意味は、「する」「つくる」でした。それににんべんをつけた「偽」という字は、見たままの「人のため」ではなく、もともとは「人がする、人がつくる」という意味で、「人間の手が加わったもの」を表していたのですが、次第に模造品、ニセモノの意味へと変化していったようなのです。（大修館書店：漢字文化資料館より）

「人」＋「為」をあえて文字通りに捉えますと、「情けは人の為ならず」ということわざが浮かびます。これには、情けを他人に掛けると、それが巡り巡って自分にも善い報いが来るのだから人には親切にしなさい、という意味があります。これこそ本来の人間のあるべき姿なのではないかと思います。

誰もが「人」の「為」を心に置いて歩いて行けば、その人生は嘘のない真に実り多きものとなるでしょう。「偽」と「真」とはひょっとすると背中合わせ、なのかもしれませんね。

頑張れ、人生のビギナー達

PTA副会長（二学年部会委員長）
小林淳

甲府昭和高等学校第三十一期卒業生の皆さん、ご家族の皆様ご卒業誠におめでとうございます。

卒業生の皆さんはいよいよ人生というステージの第一歩を踏み出す事となりますね。

皆さんが歩んでいく今の社会は色々な意味において大変複雑かつ困難が多い社会です。だからこそ皆さん一人一人が社会の一部品となることなく、一人の人間として大地を踏みしめて生きていく事が大切になります。

急速に発展、進化しているネット社会の中で、自分を見失う事なく生きていくのはとても難しい事でしょう。

でも信じて下さい。あなたは大切なご両親から生まれ、その体には代々引き継がれてきた血脈を宿した立派な人間なのです。

今までの生活は何かと家族や先生方の庇護の元にあった事と思います。しかし、これからは本当の意味で自立して自分自身で歩いて行く事となるでしょう。

目標や夢に向かって我武者羅に進んで行くと思いますが、時には遠回りをする事も大切ではないでしょうか。遠回りをして色々と見てきた人ほど最後には疲れも見せずゴールにたどり着けると思います。

また壁にぶつかった時には一息ついて、上から道をみてみましょう。

まっすぐ前だけを見ていると立ちはだかる壁しか見えません。地図を思い起こして下さい。目的に行く為のルートは何通りもあるはずです。色々なルートを通って夢に向かっていって下さい。

皆さんは、人生のビギナーです。恐いもの知らず、身の程知らず、無鉄砲な事でしょう。だからこそ無限の可能性がそこにあるのです。頑張れ！　人生のビギナー達！

皆さんの未来が幸せで満ちあふれることを心よりお祈り申し上げます。

感謝の言葉の威力とは

PTA副会長（一学年部会委員長）
小澤浩

三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、保護者の皆様には心よりお祝い申し上げます。

旅立ちに際して、どんな言葉を贈ろうかと考えていた時、こんな文章に出会いました。「感謝の言葉」の本当の意味を理解すると、驚くべき力を手に入れられる！　力が手に入るなら、「ぜひ」皆さんに紹介したいと興味を持ちました。そこには、ひとつの実験があって、水に感謝の言葉をや文字を見せたりすると、「水の結晶」が美しく変化するそうです。ガラス瓶に水を入れて、一方には「ありがとう」と感謝の言葉を書いた紙を貼り、もう一方には「ばかやろう」と汚い言葉を書いた紙を貼って水の結晶を写真に撮ると、感謝の言葉には、美しい結晶が、汚い言葉には、壊れて潰れた結晶になるそうです。

もう一つ、小学生の実験結果が紹介されていました。瓶にご飯をつめて、片方には「ありがとう」と感謝の言葉を書いた文字を貼り、もう一方には「ばかやろう」という汚い文字を貼り、学校から帰るたびにそれぞれの瓶に向かって「ありがとう」「ばかやろう」と大きな声で叫んだ結果、何と一ヶ月後には「ばかやろう」と言われたご飯は腐敗して真っ黒になり、「ありがとう」と感謝の言葉をかけたご飯は発酵し麹のような香りになったそうです。

同じ五文字の言葉に秘められる威力の差。

人間の体は、六十％は水であると言われています。あなたの発した言葉を一番最初に聞くのは、あなた自身であるならば、「ありがとう」とたくさん発することによって、体の細胞が整い、綺麗な結晶になるということは、どういうことか想像してみて下さい。

世の中の成功者は「感謝の言葉」の重要性を理解しているそうです。成功する人格者・経営者は、感謝の心や言葉を理解し、潜在的に自然の法則を感じ、正しい気の流れに沿って心を体も美しい人となり、気がつけば自ずと成功、幸せをつかんでいます。

皆さんのご多幸と成功を祈っています。

ＰＴＡ各専門委員会より

卒業生のみなさんへ

進路指導部専門委員長　小倉秋彦

県立甲府昭和高等学校第三十一期卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、保護者の皆様には心よりお祝い申し上げます。

さて、卒業生の皆さんにとってこの甲府昭和高校で過ごした三年間はどうだったでしょうか？　義務教育課程を終え、新しい仲間と迎えた入学式。勉強と部活を両立することや研修旅行での楽しい思い出、結束力を高めた紫映祭、強歩大会など心に残るものは数え切れないのではないでしょうか。勉強や人間関係、あるいは進路のことで悩み、相談に応じてくれた先生や友人と交わした言葉や時間はもう二度と戻りません。だからこそ尊いのです。この三年間で皆さんは心も身体も逞しく成長したと思います。これは甲府昭和高校で過ごした三年分の証でもあります。どうか自信を持って新しい道を歩んで下さい。

これから歩む道の中で「挑戦」することや「決断」することを強いられる場面もきっとあるはずです。理不尽なことだってあるかもしれません。そんな時こそ一人で悩まず友人、恩師、親、兄弟姉妹、誰かに相談して答えを導いたり、そうやって困難を乗り越えることも賢さの一つです。失敗してもあまりくよくよせず、また挑戦するくらいの気持ちも時には必要です。大切なことは、結果より自分が何を思い、どうしたのかということです。人生には、若い時にしか得られない素晴らしいことがたくさんあります。これから始まる新しい生活が希望溢れるものであることを願い心からエールを送ります。最後になりましたが、三年間校長先生をはじめ教職員の皆様に見守られ、高校生活を過ごさせていただき、心よりお礼申し上げます。また卒業生の皆様並びにご家族、そして甲府昭和高校に携わる皆様の今後のご活躍とご健康を心よりお祝い申し上げます。

卒業を迎える皆さんへ

生徒指導部専門委員長　山口真由美

甲府昭和高校第三十一期卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、保護者の皆様には、心よりお祝い申し上げます。

生徒指導部としては、朝の通学時の交通安全推進、紫映祭一般公開時における校内パトロールなどの活動をさせていただきました。その他、様々な学校行事等に役員としてだけではなく一人の保護者として、参加させていただき感じた事をお話しさせていただくと、生徒の皆さんが明るく伸び伸びと学校生活を楽しんでいる。皆さんの毎日が高校生という、キラキラとした夢や希望を持った充実した日々を、当たり前に何気なく過ごしていたとするのなら、それを支えて下さった先生方の存在が不可欠であったという事を忘れないでください。

大学生になる、社会人になる。それぞれの道に進むあなた達は大人として扱われます。これから大人としての生活、どんな自由や楽しい事が待っているでしょうか。今までのように、注意をしてくれる大人はいないでしょう。自己責任ですから、あなた方が高校生の間に先生方が自転車で通学する際の交通ルール。髪型や服装の乱れ。たくさんの注意を受けた事でしょう。これからはその忠告を皆さん自身で考えて行動して下さい。社会人へ向かう第一歩へ進む皆さんへ口うるさい大人から一言。ルールを守る事はしばられる事ではなく、自分自身を守る事になるのです。車に乗る、バイクに乗る際にはルールを守るのは当然ですよね。自分も安全で周囲の人を事故に巻き込むこともなくなりますよね。先生方に教えていただいた事、時にはうるさいと思ってしまった事が、あなた達の事をどれ程深く思っておっしゃくださったのか、気がつく日が必ずあると思います。こころのどこかにしまっておいて下さい。

あなた達は未来へ羽ばたく力を充分に蓄えました。まっすぐ思った道を進んで下さい。

教職員の皆様には心より感謝申し上げます。今後のご活躍、ご健康をお祈り申し上げます。

自分を信じて

保健体育部専門委員長　満井美保

第三十一期生の皆さんご卒業おめでとうございます。保護者の皆様、ご家族の皆様には心よりお祝い申し上げます。

保健体育部には、主に強歩大会への協力でした。当日は役員の皆様をはじめ、たくさんの保護者の皆様のご協力をいただき無事に大会を開催することができました。ご協力をいただいた皆様には心より感謝申し上げます。そして、準備段階から当日の運営に至るまで、先生方の並々ならぬご指導、本当にありがとうございました。

大会当日は、晴天に恵まれ穏やかな天候で、スタートラインに立つ生徒の皆さんのやる気に満ち溢れた笑顔は、若いエネルギーを感じさせてくれる逞しい姿でした。強歩大会は一年に一度行われる学校行事です。雨天の場合は中止となってしまいますが、この日のために生徒の皆さんは身体のコンディションを整え、授業中は持久走の練習に励み、多くの事を体験しながら当日を迎えたのだと思います。『頑張れ！』と送り出してくれたご家族の皆様の一声はとても心強かったのではないでしょうか。

スタートの合図と共に走り出した時から自分との戦い、ライバルである友だちとの戦い、タイムとの戦い。感想を目指しながらゴールに向かって一人一人が最後まで走り続ける姿はとてもまぶしく、子供の成長を改めて感じさせる感慨深いものでした。

卒業生の皆さんは、三年間の学校生活の中で多くの人と出会い、刺激を受け、学び、悩み、考え、目まぐるしく毎日を過ごしてきたのではないでしょうか。多くの事を経験し、周りの友だちに励まされ、先生方のご指導も下に、自分で選択をし、決断する力を得てきたのではないでしょうか。人生は選択の連続です。是非社会に飛び立つ皆さんに甲府昭和高校で学んだこと、経験したことを心の糧として、それぞれの人生を力強く切り拓いて歩んで欲しいと思います。

最後の三年間ご指導いただいた教職員の皆様には心より感謝申し上げます。今後のご活躍とご健康をお祈り申し上げます。

卒業に寄せて

総務

一年間の活動報告

主任　千野満広

祝卒業三十一期生の皆様。今年度のＰＴＡ活動としては、七月の関東高校ＰＴＡ山梨大会に五味ＰＴＡ会長、功刀・小林・小澤副会長に出席をしてもらいました。また、地元開催で、多くのクラス役員の方に、協力員として駐車場誘導係などをしてもらいました。学園祭（紫映祭）では、役員の方を中心に総合受付や出店（ＰＴＡ喫茶店）などの補助員もやっていただきました。八月の全国高校ＰＴＡ千葉大会には、五味会長に出席してもらいました。十一月の授業参観では、受付とフードバンク回収や仕分け作業についても多くの保護者に協力をいただきました。お陰様で、段ボール三十箱以上の食品を集めることができました。

また、進路専門部は六月に進路講演会を実施しました。保健体育専門部は十月に、強歩大会に備えての心肺蘇生法の講習会を実施しました。大会では、多くの保護者の方々の交通指導などのご協力をありがとうございました。生徒指導専門部では、年間数回の登校時交通指導を行っていただきました。

教養では、教養公演会を十月十二日にコラニーホールで実施しました。今年度は、古典芸能・講演会の順番の年にあたり、落語（ミュージカル落語）を鑑賞しました。三遊亭兜斗師匠の「一口弁当」という演目で、いじめにあっている少年がある老人からその解決法を教わり、立ち直っていくという物語を、歌いながら、笑いと涙を混ぜて披露してくれました。また、十一月には、ブックフェア（古本市）を行い、生徒たちから寄付してもらった古本の販売を、図書室で行いました。

情報では、昨年度学校ホームページをリニューアルしたのを機に、更新頻度を上げ、よりスピーディに様々な学校の様子の情報発信を行いました。広報誌「ＴＲＹ　ＳＨＯＷＡ」の発行も年六回行い、在校生全員と中学生や地域（昭和町役場・西条一区）に配布しました。普段の生徒たちの生き生きとした活動の様子が分かっていただければ幸いです。情報化時代の今日、情報提供、情報機器が適切に利用できる環境を今後も整えていきたいと思います。

フードバンク受付と心肺蘇生法

進路指導

一年を振り返って

主任　秋山すみ江

第三十一期生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

幕末期に活躍した吉田松陰は広く見聞きして情報を集めるという意味の「飛耳長目」というキーワードを出して、遠地の状況を集め、共有することが防衛のために必要と考えました。探索し、情報を積極的に集めることが重要であると強調していて、自然と情報が集まってしまう都会では、気持ちが甘くなり、世間が広いようでいて実は狭くなったり、偏ってしまうことが弊害ともしています。

私たちの生きる現在はまさに、インターネットを通して情報は手軽に大量に手に入ります。その中で自分で情報を集め、状況を分析し、考え、行動に移す、そんな力こそがこれからの皆さんに求められる問題解決能力といえるのではないでしょうか。また、グローバル化する社会に対応する必要性も生じています。ただ、外国語を話せる、だけでなく、言語や文化に対する理解を深め自国語で表現する力、外国語を理解し表現する力が求められます。その上で、身につけた言語能力をツールとして、日本文化を理解し伝承するとともに、異文化を理解し、異文化をバックグラウンドに持つ人々と協働していく力が求められているのです。

卒業生の皆さんは甲府昭和高校の学習活動の中で、①熟議を通して、「課題解決に向け議論する力」や、「自分たちで考え協動して答を導き出す力」を、②ディベートやプレゼンテーションの場で「自らの考えを発表する力」を養ってきました。それぞれの進路先で身につけた力を遺憾なく発揮してください。皆さんが主体となって活躍する場は今後ますます増えてきます。母国語であれ、英語であれ、自らの考えを表現できる力を養うことができた皆さんの今後の活躍を心より期待しています。

教務

卒業に寄せて

主任　熊王和彦

第三十一期生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。

あらためて振り返ってみて、甲府昭和高校での三年間はどうだったでしょうか。もちろん、高校の授業というのは専門性も高くなり、年次進行に連れて進度も速くなるため、それを自分の目標通りクリアするのは大変だったはずです。しかし、皆さん一人ひとりが努力して乗り切った高校生活だからこそ、今回の卒業には価値があるのだと私は思います。苦労して手に入れた経験値は皆さんの一生の財産です。ぜひこれからの人生に存分に生かしていってください。

今年度、創立三十三周年を迎えた本校では「これを学んだ、これができる、この力を持っている～三つの自信の輪を広げよう～」をテーマに学習活動、部活動、学校行事に取り組んできました。その中で教務係としては、皆さんの知的好奇心に火を付けるべく、山梨大学との高大連携講座や紫映タイムの計画、手帳「未来へ」の作成といった取り組みを実施してきました。高大連携講座において、三十一期生の中では十名の生徒が全九講座を受講完了し、増加単位を認定されました。その積極性は非常に立派で、後輩の良き手本になってくれたと思っています。

ところで、教務という係は、主に授業を中心とした学校の諸活動を計画・実施する部署です。学校の中の「何でも屋」だと思ってもらったら、それが一番近いのでしょう。どちらかと言うと裏方の業務になるため、生徒の皆さんにはピンと来ないかもしれません。世の中にはスポットの当たる仕事もあれば、そうでない仕事もあります。自分が裏方の仕事をしているから言う訳ではありませんが、卒業生の皆さんには、たとえ目立たない仕事でも、「人のため力尽くして」の精神でひたむきに頑張れる大人になって欲しいと願ってやみません。皆さんが本校で培った力をさらに伸長させ、社会に貢献することを心から期待しています。

年間活動報告と

TRY! SHOWA AtoZ

生徒会

主任　熊谷　剛

第三十一期のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

【TRY！SHOWA AtoZ】平成二十八年度の生徒会活動は、このスローガンで始まりました。

甲府昭和高校生徒が、各自で目標を掲げ、それをアルファベット表記し、【TRY！SHOWA ○】で表現しました。手帳〝未来へ〟や各教室に掲示する事で自信の心に刻み込んだはずです。

生徒昇降口には、【TRY！SHOWA AtoZ】の文字が掲示され、本校生徒の躍動感あふれる一日のスタートを見守りました。

卒業生のみなさんも、それぞれのTRY－○を継続された事と思います。

さて、本年度の生徒会執行部は、第三十三回紫映祭成功に向けていくつかの課題にTRYしました。まずは、『団Tシャツの継続と活用』です。どのように活用したら良いのか？　団集会時の着用において、一層の工夫が図れないか？　等々。臨時生徒総会から前期生徒総会までの継続審議と複数回の代議員会での再審議となりました。

更なるTRYは、『日程の変更』による初日の一般公開実施でした。オープニングセレモニーにおいて、校内からの映像を体育館に飛ばす大作戦を計画し、前日のリハーサルは何度も行いました。準備万端で迎えた朝、本番はトラブルによる映像遮断。本番では、必ずしも順調には進まない現実を経験しました。

新しい事にTRYする事。そして無から有を創りあげる過程は、生徒会執行部生徒の想像を越えるものでした。しかし、生徒総会にて議論された内容を実現するために、堀内会長以下生徒会執行部は、前進を重ねました。その結果は、運動会部門で『団Tシャツ』を着用しての競技、そして応援。そして、団の解散式での着用。昨年以上の一体感あふれる瞬間でした。労を惜しまず歩んだ者が、味わえる達成感を全校生徒が共有できたと実感しています。

課題と対峙し、常に正面から取り組む事は、私達に〝何ができるか？〟を問う姿勢の表れでもあり、『これを学んだ。これができる。この力を持っている。』この過程だと確信しています。

最後に〝トライス〟は、今年も多くの新しい事にTRYしました。甲府市商工会議所主催『県内ゆるキャラ紹介』日本郵便関東支社主催『ご当地キャラに年賀状を送ろう』等々。多くの地域貢献を重ねました。その中で、今年のNo.1は、トライスのデザイン使用自動販売機が昭和町常永ゆめ広場に設置された事でしょう。

本校生徒会公認マスコットキャラクター〝トライス〟は、第三十一期生のみなさんと一緒に、特別名誉生徒として入学しました。みなさんは卒業しますが、〝トライス〟は、本校の発展だけでなく、地域にも大きく貢献する事を目標に更に前進します。

本校生徒の心を結ぶ絆を大切にして、みなさんの〝トライス〟はこれからもTRY！します。

生徒指導

一年を振り返って

主任　村松親志

三年生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。SCにご卒業後の進路は皆さんそれぞれに異なりますが、本校第三十一期生の皆さんが新たなステージで大いに活躍される事を祈念しております。

今年度、生徒指導部は校内分掌の再編に伴い保健係と統合し新たに活動を始めました。従来の学校安全の維持に加え、生徒、職員の心身の健康の保持増進も目標に設定する中、業務に取り組んでいます。本年度もSC（スクールカウンセラー）に中村友美先生をお招きして、きめの細かいカウンセリングを実践して頂いております。SCに橋渡しをお願いし、精神的側面から皆さんの学校生活をサポートする環境を更に整えて行きたいと考えている次第です。

同時に、従来からの継続業務として「さわやか教育」という具体的指導方針の下、五分前行動や、挨拶の励行、落ち着きの感じられる制服の着こなし方や折り目の付いた言動を実践する事で、皆さんが自律的に学校内外の生活を送れるように率先垂範の気持ちで指導に臨んでいます。本校の生徒指導上の喫緊の課題の一つである交通安全の確保に関しては、特にバイク通学者が全体の約二〇％に達する現状において、登下校時の交通安全には相当な意識付けと配慮が必要となります。無事故無違反の達成は本校にとって悲願です。全校生徒全員が気持ちを一つにして、自転車であっても、原付バイクであっても、その達成のために取り組んで欲しいと思います。卒業後は皆さん方の多くが運転免許を取得、自動車等を運転される事になるはずです。本校で学んだ交通安全の意義を忘れずに、一社会人としてのモラル・マナーの実践を期待します。

三年生の皆さんには今後の人生の様々な場面や節目において、甲府昭和高校で培った規範意識や道徳性の実践を期待します。皆さん方の、小さいかも知れないけれど、しかし、堅実な努力の実践は、社会を変革していく原動力に必ずなるはずです。卒業生の皆さんの不断の努力を強く祈念して挨拶を結びたいと思います。ご活躍下さい。

第31期卒業生卒業記念品

テント

学園祭・強歩大会などで利用して下さい。

第31期卒業生一同

研究・研修

研究研修係の一年

主任　渡邉　英裕

第三十一期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆様の今後の人生が、より実り多きものになりますよう心よりお祈りいたします。

研究研修係では生徒の学力向上のための学習環境の整備、教員の授業力向上、キャリア教育の推進の三つを主として取り組んでいます。ここではその一つである総合的な学習の時間について報告いたします。

本校は高校段階から世界で活躍するグローバルリーダーを育成するスーパーグローバルハイスクール（以下SGH）のアソシエイト校に指定されています。総合的な学習の時間には、SGHのねらいの達成も視野に入れつつ、「課題の設定」、「情報の収集」、「整理・分析」、「まとめ・表現」の四つのシーンを効果的に結びつけながらスパイラルな探求活動を行っています。

今年度も総合的な学習の時間では、それぞれの学年の特性を踏まえた様々なテーマを扱いました。SGHに初めて取り組む1年生では東京、神奈川方面で例年実施されているエネルギー教育校外学習を柱にした「エネルギー教育校外学習を踏まえた生活改善」をテーマとして探求活動を行いました。山梨大学名誉教授の鈴木先生による基調講演で基礎基本を理解し、それを踏まえて校外学習に参加し、その後には熟議でよりよい環境を次世代に引き継ぐために高校生はどのように生活を改善すべきかを徹底的に議論しました。最終的には環境問題の有識者を招いてクラスの代表者による発表会を行い、指導助言をいただきました。

二年生では十一月に実施する沖縄への研修旅行を踏まえた探求活動、三年生では進路選択に関連する内容での探求活動を行い、全ての生徒がより高度な課題発見・解決能力を身につけることができました。二、三年生の取り組みは一年生の時からの積み重ねが十分に生かされており、いずれも素晴らしい内容でした。

これらの活動により本校の卒業生が将来、世の中に貢献出来る人材になることを期待しつつ、来年度の活動をさらに発展させたいと考えています。

平成28年度　PTAフードバンク活動

十一月五日の後期公開授業（PTA授業参観日）の日に、初めてのPTA主催のフードバンク（フードドライブ）食品回収活動を行いました。

フードバンクとは「十分に安全に食べられるのに、箱が壊れたり、印字が薄くなったりして、販売できない食品を企業等から寄贈してもらい、必要としている施設や団体に無償で提供する活動」です。事前に、回収の受付ができる食品を保護者全員に通知しました。賞味期限が一ヶ月以上のもので、生鮮食品や冷凍食品、酒類、自分で調理したものなどは不可です。授業参観に参加できない方は、当日に生徒を通じて持ってきてもらいました。

回収については、食品の種類ごとではなく、賞味期限ごとに仕分けをしました。期限三ヶ月ごとに段ボールを作り、その中に入れていきます。生徒を通じての食品は、各クラスの社会福祉委員の生徒が仕分け作業を行いました。参観受付で保護者が提出した食品は、PTAの役員を中心に六十名ほどの保護者が協力して仕分けをしました。

当日は、集まった食品（お米・缶詰・麺類・レトルトなど）は段ボールに約四十箱でした。回収作業時には、山梨日日新聞社の記者が取材に訪れてくれて、翌日の紙面にも記事が掲載されました。十一月七日に五味会長と小林副会長がトラックでフードバンク山梨に届けました。トラック積み込みの作業には、生徒会本部役員の生徒にお手伝いをしてもらいました。

ここから先は、フードバンク山梨の職員とボランティアの方々が、寄付する各家庭ごとに仕分けるそうです。家族の年齢などから推測して、好まれそうなものを詰め込んでいきます。年齢の小さい子がいたら、子供向けのお菓子などと思い遣って入れていくそうです。

平成28年度 PTA年間事業

4月　8日　入学式・新入生保護者会
11日　ＰＴＡ学級委員選挙
19日　ＰＴＡ各学年部会委員会・専門委員会・役員会
29日　公開授業・ＰＴＡ学年部会総会・ＰＴＡ総会・ＰＴＡ学級懇談会
5月16日　県高Ｐ連第1回理事会
20日　県高Ｐ連定期総会
6月　7日　ＰＴＡ専門委員会（進路）進路講演会（3年保護者対象）
26～28日　甲府昭和高校紫映祭　26日：一般公開日（受付・出店）
7月8～9日　第62回関東高Ｐ連大会（山梨県）
20～23日　三者懇談（1・2・3年生）
8月25～26日　第66回全国高Ｐ連大会（千葉県）
10月14日　ＰＴＡ専門委員会（保体）（心肺蘇生講習）
27日　校内強歩大会
11月　5日　公開授業（授業参観）・フードバンク食品回収
12月　中旬　三者懇談（3年生　各クラス随時）
1月18日　県高Ｐ連第1回理事会
23～26日　三者懇談（1・2年生）
2月20日　ＰＴＡ学年監査（3年）学年部会委員会（3年）
3月　1日　第31回卒業証書授与式，ＰＴＡ第3学年部会総会
14日　ＰＴＡ学年監査（1・2年）学年部会委員会（1・2年）

学年報告

十八才の大人に期待。

三学年主任　矢 﨑 敏 明

ご卒業おめでとうございます。

まずは卒業する皆さん、保護者の皆様に祝福の言葉を述べさせていただきます。

気がつけば節目の時。三年間は短いと改めて感じます。この三年間を振り返ると、社会には様々な出来事がありました。日本の底力を見せる日本人ノーベル賞受賞者の続出。少子高齢社会への対応が迫られると同時に厳しい日本経済の現状を実感させる消費税10％の先送り決定。そして熊本での大地震。東日本大震災だけでなく、度重なる自然災害は、日頃から備え、共助の精神を忘れてはいけないことを改めて認識させました。

社会が大きく変化する時代にあって、皆さんは高校生活で何を学んだのでしょう。集会で「気づき」という話もしましたが、高校生活で気づいたことは何ですか？大きな夢、理想を掲げて入学したのに思うように成果が出せずに苦難の連続の人。その一方、常に笑顔を欠かさず全力で取り組む皆さんにも沢山出会いました。どんな形であれ、未来の可能性に向き合う皆さんをうらやましいと感じ、元気をもらっていました。

人生に対して何も取り組まなければ、自分の「分」さえも理解できず、そして手にしないまま時間が過ぎていきます。十八歳投票権は時代の変化の中で皆さんが大きく変われるチャンスです。未来は変えられます。社会は変わっていきます。今この瞬間が皆さんの全てではありません。大所高所で社会を見つめ、自分を見つめての行動が求められているのです。

守破離の離。卒業する皆さんは大人として自分の分を越えて何にでも挑戦しましょう。その行動が新しい社会、あなたの未来を築く礎になるはずです。今までの甘えを捨て自主創造の精神を忘れずに。

皆さんの未来に期待します。

この一年を振り返って

二学年主任　藤 田 晴 彦

第三十一期生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。私は昨年度、理系クラスの授業を担当し、皆さんと楽しく充実した日々を過ごすことが出来ました。皆さんにとってこの三年間はいかがでしたか。本校での「智を磨き心を鍛え」た三年間を胸に次のステージに羽ばたいて下さい。

さて、昨年四月に伊藤学年主任から引き継いだこの学年の一年間を振り返りたいと思います。一学年は「Design Your Future!」を大きな目標に掲げてスタートしました。そして、この二学年は「Take Action!!」を大きな目標に掲げました。二年生の皆さんはいかにこの一年間を過ごしたでしょうか。五月に行われた総合体育大会、六月末の紫映祭。そして高校生活最大の行事である研修旅行など。行事としては無事に終えることが出来ましたが、目標を意識した上での達成結果はどうだったでしょうか。

振り返れば、紫映祭においてはクラス総合順位が四位に食い込みクラスの団結力を示せたクラスもありましたが、一方、総合順位が二一クラス中一七位、一八位という悔しい思いをしたクラスもありました。来年は最高学年として迎える最後の学園祭になります。クラスの仲間と目標に向って協働できる又と無い機会です。有終の美が飾れることを期待しています。次は研修旅行です。事前学習として旅行委員による旅行通信を七回発行しました。また、「沖縄について学ぼう」と題してプレゼン大会を開くことになり、沖縄の自然・歴史・文化などをテーマにしたスライドを作成しました。クラス内で各班が発表し、選抜された各クラス代表によるプレゼン大会を十月末に開催しました。事前学習としてこのプレゼンは大変意義のあるものだったと思います。

研修旅行の目的は「平和教育」と「生徒相互の理解と信頼を深めること」の二つです。現在の基地問題を考えると沖縄にはまだ戦後が訪れていない感がしますが、生徒にとっては平和の尊さが実感できた旅だったと思います。また、旅行を通じてクラスの親睦が深まり人間同士の絆がより深まったと信じています。

さて、四月からはいよいよ最高学年になります。この学年の大きな目標は「Seize Your Dream!!」です。「わが道を開きて進む」ことができる一年になるよう生徒の皆さんの奮起を期待しています。

自ら考え、自らの意志で行動する

一学年主任　風 間 久 幸

三年生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。私は昨年まで皆さんと同じ学年に所属していました。今も授業を担当していますし廊下でもよく挨拶をかわすので、皆さんの卒業をことさら嬉しく思っています。三年生になった皆さんを外から見ると、ずいぶんと大人になったことに気づかされます。この間ある会議で、以前に比べ生徒が学年外の先生にもよく挨拶をするようになったという話がありました。これも皆さんの積極的な姿勢が、学校全体に浸透しているからではないかと感じています。と同時に、今の一年生をしっかりした甲府昭和高校生に育ててかなければならないという責任を痛感しています。

さて、一学年は「自ら考え、自らの意志で行動する」という方針を掲げています。三年生がそうであったように、二年後には自分の力で自らの進路を切り拓かねばなりません。そこで一学年では、教師側からの「させる」指導を見直し、生徒の自主性を育成する教育を工夫しています。学習意欲を喚起するため、土曜講座の中で「よりよい学習習慣を身につける講演会」を実施し、学習方法や進路に関する情報を提供し、社会人や浪人経験者に話をしていただきました。コモンスペースには「進路のアトリエ」を設置し、学習関連書籍の貸し出しを行っています。定期試験前には強制的な学習会を廃止して自主学習を促し、スマホの使用制限を呼びかけました。各教科でも課題の精選と学習方法の改善に努め、例えば数学では、単元テストに向けて自分で学習ペースをつくる指導しています。英語では、一律の単語帳をもたせる代わりに副教材の展示会を行い、教材の選び方を助言しています。こうした活動をしたからといって、成績がすぐに上がるわけではありません。しかし生徒の主体性を育てることが、最終的には学力の向上への近道だと考えています。保護者の皆様にはこうした学年の方針をご理解いただき、今後も引き続きご協力をお願いいたします。

第31回 卒業証書授与式

山梨県知事 祝　辞

県立甲府昭和高等学校卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。

皆さんは、高等学校で多くの友やよき師と出会い、勉学や部活動に励み、自己を鍛え磨いてこられました。そのたゆまぬ努力と精進の日々に、心からの賛辞を送ります。

また、今日の慶びの日を迎えるまで、お子さまの健やかな成長を、愛情をもって支えてこられました保護者の皆様に対し、心からお祝いを申し上げます。

新しい時代を切り拓いていく皆さんの晴れの日にあたり、私の所感の一端を申し上げ、はなむけとしたいと思います。

まず、それぞれが失敗を恐れずに、挑戦していく姿勢を生涯にわたって持ち続けてほしいということです。今日、私たちが暮らす社会は、グローバル化が急速に進み、人、物、情報などの国境を越えた行き来がますます活発になる中、精神的な豊かさや生活の質を重視する「成熟社会」や少子化等に伴う「超高齢社会」を迎え、大きな変化が訪れています。我が国が抱える様々な問題に対応し、解決を図っていくためには、私たちを取り巻く社会の変化を「時代の潮流」として的確に把握し、一人一人が知恵を振り絞って解決に資する課題を自らに課していくことが求められます。そしてそれらの課題を克服していくために、困難にくじけず、自らの志を貫く気概をもって何事にもチャレンジしていく必要があります。リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックで活躍した選手たちが我々に勇気を与え、諦めないことの大切さを示してくれたように、理想の実現に向かう皆さんの努力により、全ての人が多様な個性や能力を開花させ、豊かな人生を歩むことのできる社会の実現につながることを期待しております。

次に、他者を思いやり、多様な個性を尊重し、人々が世代や地域を越えて支え合いながら、安心して暮らせる社会の実現に向けて、社会全体の絆を深めてほしいと思います。先達の知恵が宿る我が国の伝統や文化、また、ふるさとの美しい風土や自然は、未来への貴重な財産として引き継いでいかねばなりません。人々の信頼の構築は、自然災害をはじめとする私たちの安全を脅かす様々な課題に対しても、必ずや解決の道筋をつけてくれるはずです。

皆さんのふるさとには、世界遺産富士山をはじめとする豊かな自然や世界に誇る個性的な地域資源が数多くあります。皆さんには、ふるさと山梨の魅力を国内外に発信し、さらに高めていくことに情熱と力を発揮されるとともに、個性を最大限に発揮し、生涯にわたって輝き続ける人生を創造されることを願っております。

結びに、甲府昭和高等学校教職員の皆様をはじめ、保護者、同窓会、関係各位のこれまでの御尽力に対し、心から御礼申し上げますとともに、皆様の御健勝と甲府昭和高等学校のますますの御発展を祈念して、私のお祝いの言葉といたします。

平成二十九年三月一日

山梨県知事　後藤　斎

紫映残照

18歳選挙権の開始やアメリカのトランプ大統領誕生など、期待と不安、変革を感じさせる二〇一六年だった。巷間、「20年以内に、今の仕事の47％は、機械が行うようになる」「二〇一一年に小学校に入学した子どもの65％は、大学卒業後、現在はまだ存在していない職業に就く」という予測が取りざたされている。具体的な職業を挙げて、近い将来機械に取って代わられてなくなる仕事、なくならずに残る仕事も予測されている。

アメリカのデータではあるが、なくなる仕事の例として、営業員・運転手・事務員・窓口係・秘書等があり、一方、振り付け師・医師・看護師・小学校教員・心理カウンセラー等はなくならない仕事として挙げられている。日本においても、九州のあるホテルでは、女性型ロボットや恐竜型ロボットがフロントで宿泊客を出迎え、ロボットポーターが荷物を運び、部屋に案内してくれる。人件費や建設費、光熱費を抑制するためのものだが、まさしく変なホテルである。新しい発想や価値を生み出したり、人とのふれあいや高度な伝達が必要であったり、人の心に寄り添うことが求められるような、人間でなければできない仕事以外は、近い将来機械（ロボット）に奪われてしまうのだろうか。

20世紀に生まれ育った身には、これらのことは驚きをもって受け止められるが、20年ほど前にはまだその存在がほとんど知られていなかった携帯電話やインターネットが、今では当然の如く使われ、関連する職業に多くの人が携わっていることと同様の出来事とも捉えることができる。ましてや、ロボット掃除機を利用している家庭も増え、また、車の自動運転技術がテレビ・コマーシャルで宣伝され、人工知能ソフトが世界最強の囲碁棋士を破ったことなどを考えると、前述の予測は絵空事ではない現実味を帯びていると感じられる。

今更時代を遡ることはできない。時代の変化に対応するためにも、私たちの意識改革と、21世紀に生きる私たちの子どもたちに必要とされる力、特に、「課題を自分のこととして捉える当事者意識を持ち、他の人たちと協働して新たな考えを生み出し、課題を解決する力」をつけてやる努力を今まで以上に行っていきたい。（教頭　三浦浩一）